



HAPEE ハッピーメール MAIL

発行：ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター
〒730-0052 広島市中区千田町 3-7-47 TEL:082-248-1400

Facebook



ハッピーメール
バックナンバー



【Mail Magazine 知っ得情報】

メルマガでは国、県、市町、産業支援機関等及び産振構の公募イベント助成金情報などのご案内をいち早く皆様にお届け致します（右記のQRコードで閲覧できます。）。※毎週木曜日配信



（公刊）ひろしま産業振興機構発行

「今月の企業ご紹介コーナー」は、当国際ビジネス支援センターの各事業にご参加いただいた国際賛助会員企業や、関係機関のご担当者の方々にスポットを当てた、担当者目線での企業紹介コーナーです。

今月の企業紹介コーナー 株式会社アサムラサキ

会社概要

- 会社名：株式会社アサムラサキ
- 代表者：代表取締役社長 藤井 悠子
- 本社所在地：福山市東深津町 5 丁目 20 番 38 号
- 社オフィス：岡山県笠岡市茂平 989
- URL：<https://www.asamurasaki.co.jp/>
- SNS：asamurasaki1910. (Instagram)
asamurasaki1910. (X)
@asamurasaki.co.jp (TikTok)
- 事業内容：醤油・つゆ類・ドレッシング
その他調味料の製造
- 設立：1910 年 11 月 25 日
- 従業員数：58 名

アサムラサキ



担当者からの会社PR！



私は株式会社アサムラサキ
営業課の大谷です。
✉ohitani@asamurasaki.co.jp
☎0865-66-2727

アサムラサキは創業 115 年の調味料メーカーで、地元の原材料と独自の製法を活かした高品質な商品開発を強みとしています。

今では高い知名度を活かして、多くの企業様から声がけ頂き、新しいコラボ商品を生み出しております。また広島東洋カープ様とのコラボが決まり、オリジナルボトルの販売に向けて、社員一同ワクワクしながら全力で取り組んでいます。国外輸出においては、現地の規制に合わせた商品改良にも深く関わっています。現在はかき醤油を中心にアジアや欧米の市場で展開している他、広島空港の免税店やお土産店でコラボのお菓子が特に好評です。

今後は現地文化に合わせた商品を積極的に開発し、今まで以上の販売を視野に入れ市場対応力の強化を図っていく計画です。



国際ビジネス支援センターとの関わり！

私たちが目下取り組んでおります、海外輸出向けビジネスのマッチングや商談へのお声がけなど、いつも親切にいただき、商談時も心強いサポートのおかげで、普段ではなかなか巡り合えないお客様と、有意義な交渉の場を設けていただき、本当に感謝しております。

今後もお力添えをいただきながら、海外向けビジネスに前向きに取り組んで参ります。

■ CONTENTS ■

今月の企業紹介コーナー		株式会社アサムラサキ	1
海外レポート	シンガポール	国境を越える経済統合、ジョホール・シンガポール特別経済区 (JS-SEZ) その2	2
	バンコク	バンコク日本博 2025	3
	ベンガルール	日印首脳会談で合意された 50 万人というケタ違いの日印人材交流目標について	4
お知らせ	ハッピーからのお知らせ		5-8

「国境を越える経済統合、ジョホール・シン ガポール特別経済区（JS-SEZ） その2」

周辺アジア各国も含め、数多くの市場・企業など調査業務実績を持つ。グループ会社の Crossborder Pte Ltd と二人三脚で、日本企業の M&A、現地パートナーシップ構築を準備段階である川上の調査から実施段階である川下のコンサルティング／アドバイザーまでのサービスを提供。高い情報収集能力で企業の商談、進出、会社運営をきめ細かくサポート。



2025 年 7 月号の HAPPEE MAIL で、ジョホール・シンガポール特別経済区（JS-SEZ）についてご紹介しましたが、今回はその続きです。

＜ジョホールとシンガポールを繋ぐ公共交通＞

JSSEZ が一つの経済圏として機能していくためには、円滑なアクセスが不可欠です。ジョホール州とシンガポールは地理的にわずか数キロメートルしか離れていませんが、長年にわたって交通渋滞や越境手続きの煩雑さが課題とされてきました。これらの問題を解決し、より緊密な経済・人的交流を促進するため、大規模な交通インフラプロジェクトや税関・越境手続きの簡素化が進められています。

その一つが、ジョホールバルとシンガポールのウッドランズを結ぶ全長 4km の都市高速鉄道「RTS（Rapid Transit System）リンク」です。2026 年末の完成が見込まれており、両都市間を約 5 分で移動できるようになります。最大で 1 日あたり 10 万人の通勤者・観光客の輸送が可能とされ、生活コストの低いジョホールに住み、シンガポールに通勤する人も増える見込まれています。

さらに、RTS のジョホール側の駅からは、自動走行路面電車（ART）による接続が予定されています。ART（Autonomous Rapid Transit）は、路面に描かれたガイドラインをセンサーで読み取って走行する自動運転型の電動輸送システムです。環境に配慮した電動車両を使用し、最大 3 両連結で 300 人以上の乗客の輸送が可能で、ジョホールバル中心部と郊外 3 地域を結ぶ路線として運行が計画されています。

＜入国や通関も簡素化＞

出入国や通関手続きの簡素化も進んでいます。2024 年 3 月には、マレーシアからシンガポールへの陸路国境において、パスポート不要の QR コードによる通関が導入されました。さらに RTS 完成時には、両国の入国審査を一か所で完結できる「共同税関・入

国検疫施設（CIQ）」の設置が予定されています。

＜データセンターへの投資が堅調＞

JSSEZ への投資分野として有望視されている分野の一つが、データセンターです。

地震などの自然災害がほとんどないシンガポールでは、多くのデータセンターが設立されてきました。しかし近年は、土地不足や電力コストの高さにより、新規開発が頭打ちとなってきています。こうした状況の中で注目されているのが、JSSEZ です。

ジョホール州も自然災害が少なく、シンガポールに比べて土地コストが安価なことから、シンガポール企業によるデータセンターの建設が活発化しています。特にステナク・テックパークには、大規模施設からコロケーション型まで、さまざまなタイプのデータセンターが進出しています。

＜投資のワンストップセンターも開設＞

ジョホール州への 2024 年の認可投資額は 485 億リンギット（マレーシア全体では 3,785 億リンギット）となり、2023 年の 431 億リンギットから 12.5%の伸びを示しました。さらに、2025 年第 1 四半期の認可投資額は 274 億リンギットに達しています。

2025 年 2 月には、ジョホール州の投資活動を支援するワンストップサービスを提供する「ジョホール・マレーシア投資促進センター（IMFC-J）」が設立されました。2025 年 5 月現在、製造業、データセンター、エネルギーといった分野を中心に、シンガポール、中国、韓国などの企業 47 社と積極的に協議を進めており、2025 年の認可投資額は 500～600 億リンギットに達する見通しです。

JSSEZ に関心のある企業の皆さまは、ぜひ一度ご相談されてはいかがでしょうか。

（マレーシア通貨 1 リンギット＝約 35 円）

「バンコク日本博 2025」

在タイ歴 25 年。会社・駐在員事務所設立、BOI 申請、ビザ・労働許可証、その他各種ライセンス・許認可申請・登記のサポート、労務・法務、コンサルティングを担う。会計事務所やセキュリティ、IT 会社、バイオ技術商社も含むグループ全体の管理を行い、タイでのビジネスをワンストップでサポート。



今回で 10 回目となるタイ最大級の日本イベント「バンコク日本博」、そこでは単なるソフトパワーだけに頼らない、日本の魅力をタイの方々に感じてもらうための、数多くの仕掛けが用意されていました。それは非常に新鮮な驚きでしたので、ここに報告します。

＜依然として人気を誇る日本のソフトパワー＞

タイにおける日本ブームを支える最大の要因は、中間所得者層の拡大と、近年の円安です。これにより、タイから日本への旅行者数は、日本人訪タイ者数を上回る状況が続いています。「日本博」の会場では、ラーメンや刺身といった日本食、旬の果物や日本酒などが人気を集め、各航空会社や旅行代理店、地方自治体のブースは、次の日本旅行を計画する多くのタイ人で盛況でした。また、200 台を超えるガチャガチャが設置されるなど、ポップカルチャーへの関心も依然として高いものがあります。



(写真：各地域のゆるキャラが来場者をお出迎え)

＜日本博 2025 の特徴：「教育」と「キャリア」＞

年間を通じて数多く開催される日本関連イベントの中で、「日本博」の大きな特徴は、「教育」というテーマに明確な焦点を当てている点です。

イベントの主催者である「J-Education」は、タイとインドネシアで日本語教育と、日本への留学・就職を支援するエージェントです。

会場には、日本へ留学を希望する学生のための各学校法人ブースや、実際に日本の奨学金で留学したタイ人の先輩に直接話を聞ける「センパイコーナー」が設けられていました。また、声優に憧れる若者のための「アフレコワークショップ」も開催され、漫画やイラストといったクリエイティブ分野での留学への関心の高さも伺えました。

そして、日系企業の経営トップが自らブースに立ち、学生たちの質問に真摯に答える姿も印象的でした。

＜主催者の戦略と理念＞

このイベントの設計には、来場者の「日本が好き」という純粋な感情を、より深く、長期的な関係へと育てるための、巧みな意図が見られました。

まず、食や観光といった誰もが楽しめるコンテンツで幅広い層を惹きつけ、次に「知れば知るほど好きになる日本」というスローガンのもと、来場者の知的好奇心を刺激します。そして最終的に、その高まった関心を、教育やキャリアといった個人の「人生の選択肢」へと繋げる。そんな一貫した仕掛けが、会場の随所に用意されていました。

その未来志向の戦略を象徴するのが、主催者である J-Education 代表・長谷川氏がスピーチで紹介した、運営に参加する 30 人の大学生たちの存在です。長谷川氏は、彼らの貢献を称え、「これからの日タイの絆をさらに強める大切な一歩になる」と語りました。

＜まとめ＞

韓国や中国とのソフトパワー競争が激化する中、「日本博」が示したのは、一過性のブームで終わらないファン育成のモデルです。食や観光という入口から、教育や就職という個人の人生に深く関わる「次の行動」へと繋げる。この視点が、これからの日タイ関係の鍵となりそうです。

「日印首脳会談で合意された 50 万人という ケタ違いの日印人材交流目標について」

米国公認会計士。税理士法人及び米系企業経理部門での経験を経て、2012 年に南インドのチェンナイに移住し、現地でのコンサルティング会社を設立。中小企業の会計・税務アドバイザー等多くの支援実績を持つ。現在はベンガルール在住。



〈2025 年 8 月に日印首脳会談が実現〉

2025 年 8 月 29 日に日本で開催された日印首脳会談の中で、インドから日本への熟練した人材および将来性のある人材を 5 万人増加させ、インドと日本の双方向で 50 万人以上の人材交流を目指す壮大な目標が発表されました。日本とインドが今後どのように人材交流を推進していくのかについて、両国が合意した「日印人材交流・協力アクションプラン」に基づき、概要を解説します。

この日印人材交流の目的は以下の5つであると発表されています。

1. インドから日本への熟練した人材および将来性のある人材の関心を喚起し、相互認識のギャップを解消すること。
2. 両国の人的資源の補完性を活かして、共同研究や事業化、価値創造を推進すること。
3. インドにおける日本語教育の促進と、将来への投資としての双方向の文化・教育・草の根交流を推進すること。
4. IT 人材を含む人材不足に直面する日本と、技能開発・製造業の強化を目指すインドの間の、経済的利益をもたらす補完性を活用すること。
5. 日本企業とインドの学生の接点を強化すること。

〈日印人材交流・協力アクションプラン〉

上記目的を達成するための具体的なアクションプランは以下の6つです。

章1：高度人材の促進

今後 5 年間でインド国内のエンジニアや学術関係者が日本で仕事をするための流れを促進し、その土台を構築するための取り組みです。半導体や AI を含む分野において、日本企業でどのような雇用機会があるのか認識を深めるための事業や、語学指導を実施する外国青年招致事業（JET プログラム）の拡大などが計画されています。

章2：学生と研究者の交流促進

今後 5 年間でインド人の学生や科学者、研究者が日本に留学や共同研究したりする流れを一層促すための取り組みです。日本科学技術振興機構（JST）の「さくらサイエンス・インド大学生招へいプログラム」や、文部科学省のインド若手科学頭脳循環プログラム「Lotus プログラム」などが計画されています。

章3：特定技能制度と技能実習の活用

日本政府の特定技能制度のもとで、より多くのインド人材の交流を促すための取り組みです。試験センターの拡充や、インド人の海外移住者向けポータルサイト「e-Migrate」における日印専用ページの設置などが計画されています。

章4：スキル開発の推進

日本の経営や産業、製造業分野における専門知識を活用して、インド人材の技能レベルを向上させ、より日本に適応した人材を育成するための取り組みです。経済産業省の「INPACT」や「IJTB プログラム」などを通じた職業訓練プログラム、インターンシッププログラムの実施などが計画されています。

章5：語学力の向上

技能分野に関連した日本語教育を促進するための具体的な取り組みです。日本語教育専門家のインドへの派遣などが想定されています。

章6：意識向上、支援、調整の強化

日印人材交流を、より自立的かつ持続可能にするために、積極的に意識向上を促すための取り組みです。



（出所）首相官邸ホームページ



海外ビジネスパートナーによる

香港ビジネスセミナー

講演：国際金融都市「香港」の魅力と現状

対談：香港を起点にアジア進出する際に
直面する課題とその解決等について

本セミナーでは、香港を拠点にアジア展開を進めるうえで欠かせない会計・税制・監査の最新動向を現地の具体的事例を交えながら、香港での15年の実務経験のある専門家が解説します。

また、アセアン諸国の会計事務の専門家と対談形式で、香港・アセアン諸国へ展開する際の注意点等についても、具体的な事例を交えながら説明します。

皆様のご参加をお待ちしております。

日 時

2025年10月20日(月)
14:00～16:20 (受付開始13:30)

リアル開催
参加費無料！

◆講演 14:00～15:10

◆対談 15:20～16:20

場 所

広島大学東千田キャンパス地域連携フロアSENDA LAB
(広島市中区東千田町1丁目1-89)

申込方法

お申込みはこちらから

<https://ws.formzu.net/dist/S84500898/>



申込締切

2025年10月14日(火)

講演・対談

海外ビジネスパートナー

横藤田 憲一 氏

米国(ワシントン州)・香港公認会計士
大阪生まれ、本籍地は広島。アメリカ・ワシントン州に留学。日本および香港の監査法人にて、上場企業や外資系企業の監査業務に従事した後、2014年に香港でKYI Accounting & Consulting Limitedを設立。



対談

愛宕山会計事務所 代表

相川 聡志 氏

日本公認会計士・税理士
ADVISORY SERVICE SINGAPORE PTE. LTD. 取締役
新日本監査法人(原、新日本有限責任監査法人)を経て独立開業。会計及びマネジメントに関する知識と経験を活かし、企業のASEAN進出をサポート。



問い合わせ先



公益財団法人ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター
TEL : 082-248-1400
E-mail : s-kokusai@hiwave.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

ご記入いただいた個人情報は、下記に記載する目的で収集・利用いたします。

◇セミナー開催に関するご案内 ◇サービスに関する情報のご提供 また、ご本人の事前の同意なく第三者に提供することはありません。

FSMA(米国食品安全強化法)対応

PCQI

トレーニング講座

福山会場 9/18 締切

10月15日・16日・17日

広島会場 11/5 締切

12月2日・3日・4日

米国の「食品安全強化法(FSMA)」103条では、米国内で販売される食品の製造者（米国へ食品輸出する日本の食品製造者を含む）に対し、PCHF規則（ヒト用食品の予防コントロール：21 CFR Part 117）の遵守を求めています。具体的には、現行適正製造規範（CGMP）に則した前提条件プログラムの運用やハザード分析に基づく食品安全計画の策定を求めており、食品安全計画の策定や運用においては、PCQI（予防コントロール有資格者）の参画や監督が必須となります。

ひろしま産業振興機構および福山商工会議所では、このPCQIになるために必要な標準カリキュラムに基づき、米国FDA FSPCA（The Food Safety Preventive Controls Alliance）のリードインストラクター資格を有する講師によるトレーニング講座を対面形式で開催します。

本講座を修了した参加者はFSMA103条で義務づけられたPCQI資格が取得でき、FSPCAから修了証書が発行されます。受講料12万円以上の新Version2.0基準の講座を、福山・広島市内で格安に受講できる絶好の機会です！

■ 日時

①福山会場：2025年10月15日(水)・16日(木)・17日(金) 3日間 各日 9:00～17:30

②広島会場：2025年12月 2日(火)・3日(水)・4日(木) 3日間 各日 9:00～17:30

※時間は多少、前後することがあります。

■ 場所

①福山会場：福山商工会議所 3階 304会議室（福山市西町2-10-1）

②広島会場：広島県情報プラザ2階 第1研修室（広島市中区千田町3-7-47）

■ 内容

食品安全計画の概要・作成、CGMP(現行適正製造規範)とPRP(前提条件プログラム)、危害分析とは、危害要因分析、予防的管理措置、検証、妥当性確認、記録、リコール計画等 PCQI資格を取得するために定められている内容。

※新Version2.0基準の講座です。FSPCAによる講座内容の改訂により講座時間を延長しています。

■ 講師

萩原 正（はぎわら ただし）氏

ペリージョンソンホールディング株式会社ペリージョンソンコンサルティング

リードインストラクター

食品メーカーにて生産や品質保証の実務に長年従事。

FSSC22000などの食品安全マネジメントシステムに関する国際認証規格の主任審査員として現場経験が豊富。

■ 対象

広島県内に製造拠点があり、同一の参加者が3日間のカリキュラムすべてを受講できる、米国への輸出に取り組む食品関連事業者の方。

■ 定員 各会場、25名

■ 受講料（テキスト代、講座修了証書発行費が含まれます）

ひろしま産業振興機構の国際賛助会員または福山商工会議所会員 4万円/人

上記の会員以外 7万円/人

■ 申込

※福山会場は申込期限をすぎても対応可能な場合がありますので、お問合せください。

オンラインフォームから9月18日(福山会場)／11月5日(広島会場)までに、お申込みください。

定員になり次第、締め切ります。 <https://ws.formzu.net/fgen/S98316098/>



＜お問合せ先＞

公益財団法人ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター

TEL : 082-248-1400 s-kokusai@hiwave.or.jp

＜お申込み＞



PCQIトレーニング講座(福山・広島)

講師 萩原 正(はぎわら ただし) 氏

食品メーカーにて生産や品質保証の実務に長年従事、海外の生産工場での実務経験も豊富である。
また、米国・ウィスコンシン州立大学の客員研究員として食品加工の研究にも携わった経歴を持つ。
2000年には大規模食中毒事故を経験し、所属していた企業の食品安全マネジメントシステム再構築にも貢献した。
現在は、FSPCAのトレーニングを受けたリードインストラクターとして、FSMA対応のセミナー講師を務めるほか、コンサルタントとして食品安全マネジメントシステムの構築や運用の支援を行っている。
FSSC22000など食品安全マネジメントシステムに関する国際認証規格の主任審査員としても、多くの現場経験を有している。

米国食品安全強化法<FSMA>の概要

■ 制 定 2011年1月4日

■ 概 要 FSMAは、食品の安全性を強化するために米国で制定された法律です。
米国で生産される食品だけでなく、米国に輸出される食品にも適用されるため、米国向けに輸出する日本の食品関連事業者も対応が必須です。
企業規模や品目によって適用が異なります。

■ 背 景 米国では年間3,000件以上の食品由来の死亡事故が発生しており、「事後的対応」から、問題を未然に防ぐための「予防管理」への転換を目的として導入され、食品医薬品局(FDA)の権限を多岐にわたり強化するために制定されました。

■ 対 象 米国内に流通する食品の製造・輸入・販売に係る米国内外(日本も含まれる)のすべての事業者

■ 主な内容

102条 米国内外の食品関連施設のFDAへの登録と、米国代理人の義務強化
2年毎、偶数年に更新が必要。

103条 PCQI(未然予防有資格者)による食品安全計画の作成義務
・FDAに登録した施設は、103条の「ヒト向け食品に対する予防コントロール」(Preventive Controls for Human Food : PCHF)で義務づけられたPCQIによって危害分析・予防管理を含む食品安全計画の策定・実施を行うことが求められています。
・PCHFでは、HACCPを発展させた「ハザード分析及びリスクに基づく予防コントロール：HARPC」のようなリスクベースの予防コントロールが求められています。

※103条は、食品関連企業にとって非常に重要な法令です。

201条・306条 FDAによる外国施設への査察強化



広島駅発着
添乗員同行
1名1室利用

広島アセアン協会

定員になり次第、
締め切らせていただきます。

躍動する魅力的なアセアン!!

参加者
募集!!

マレーシア縦断&シンガポール 視察ツアー

7日間

旅行代金に
燃油
サーチャージ込み!

ツアー期間 **2026年 1月18日(日)~1月24日(土)**

旅行代金 大人お一人様 **1名1室利用 583,000円**

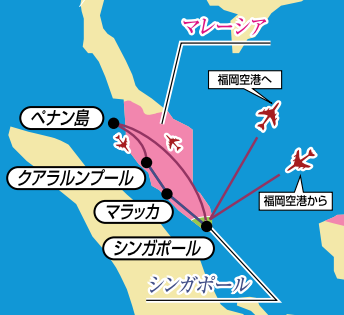
旅行代金には燃油サーチャージが含まれています。

※別途、国際観光旅客税1,000円、国内空港諸税2,350円、空港税10,210円が必要となります。
(2025年9月8日現在)

※パスポートの残有効期間は入国時6ヵ月以上必要となります。

ビジネスクラス追加代金 **390,000円~** (お申し込み時の空席状況による変動制)

■最少催行人員/15名(定員/20名) ■食事/朝5回・昼5回・夕5回(機内食は除く) ■添乗員/同行します
■利用航空会社/シンガポール航空・マレーシア航空



美しい自然と都会の街並みが混在する

マレーシア

イスラム教を中心としたマレー文化と中国文化、ヒンドゥー文化など多様な文化が共存する多民族国家です。

★国土は日本より少し小さい約33万Km²。日本との時差は約1時間です。一年を通じて常夏の気候。平均気温は26~27℃。気温と湿度の高いマレーシアで快適に過ごすためには通気性の良い服をお勧めします。日中は気温が高くても朝夕は冷え込めます。また建物の中では冷房が良く効いているので長袖の上着を持参すると安心です。マレーシアの道路は、でこぼこや段差がある場合が多く高いヒールや歩きにくい靴は避けた方が無難です。
★訪問する1月の気温/最高気温:約32℃、最低気温:約23℃

※寺院の見学/人々の神聖な祈りの場です。見学される時は肌の露出を避けた節度ある服装を心がけてください。



東南アジアNo.1の発展を遂げる国

シンガポール

マレー半島の南端に位置し、50以上の島々からなる多民族国家シンガポール。美しい街並みから、庭園都市と称されています。

★超高層ビル群とマリナベイサンズなどの新スポットが次々生まれ、一方ではイギリス統治時代の優雅な街並みも残り、熱帯の緑や花々が彩りを添えるガーデン都市は世界から熱い視線を受けています
★日本との時差1時間。気温は、マレーシアとほぼ同じ気候で服装も同じで過ごせます。帽子やサングラス、日焼け止めクリームで日焼け対策をしましょう。赤道近くに位置する為、日差しも日中は強くなりますので日差し対策をお勧めします。

宿泊予定ホテル



日次	都市	時間	行程	食事
1 2026年 1/18 (日)	広島駅発 博多駅着 福岡空港発 シンガポール空港着 シンガポール空港発 ベナン空港着 パタワース	6:05 7:33 9:45 15:20 19:00 20:25 夜	新幹線で博多駅へ タクシーで福岡空港へ シンガポール航空機でシンガポールへ シンガポール航空機でベナンへ 入国審査後、市内へ ホテルチェックイン パタワース(泊)	☒ 機 ☒ 機
2 1/19 (月)	パタワース クリム州 ベナン島 ベナン空港発 クアラルンプール空港着 クアラルンプール	午前 午後 20:35 21:40	朝食:ホテル 企業視察 昼食:レストラン 夕食:レストラン マレーシア航空機でクアラルンプールへ 荷物受取後、ホテルへ クアラルンプール(泊)	☒ 朝 ☒ 昼 ☒ 夕
3 1/20 (火)	クアラルンプール	午前 午後 夜	朝食:ホテル 企業視察 昼食:レストラン 企業視察 在クアラルンプール日本大使館 表敬訪問 クアラルンプール(泊)	☒ 朝 ☒ 昼 ☒ 夕
4 1/21 (水)	クアラルンプール マラッカ マラッカ	午前 午後 夕刻 夜	朝食:ホテル 企業視察 マラッカへ 昼食:レストラン マラッカ市内視察 ホテルチェックイン 夕食:レストラン マラッカ(泊)	☒ 朝 ☒ 昼 ☒ 夕
5 1/22 (木)	マラッカ ジョホールバル シンガポール	朝 午後 夕刻 夜	朝食:ホテル ジョホールバルへ 昼食:レストラン 工業団地視察 バスは国境で乗り換え ホテルチェックイン 在シンガポール日本大使館 表敬訪問 シンガポール(泊)	☒ 朝 ☒ 昼 ☒ 夕
6 1/23 (金)	シンガポール	午前 午後 夜 深夜	朝食:ホテル 企業視察 昼食:レストラン 企業視察 企業視察 夕食:レストラン 食後、空港へ 機中(泊)	☒ 朝 ☒ 昼 ☒ 夕
7 1/24 (土)	シンガポール空港発 福岡空港着 博多駅着 広島駅着	1:20 8:10 9:36 10:42	シンガポール航空機で福岡へ 入国審査後、タクシーで博多駅へ 新幹線で広島駅へ 到着後、解散	☒ 機 ☒ 機

※交通機関のスケジュール変更等により日程に変更が生じる場合があります。※視察先及び視察日時は、現地側の都合で変更される場合があります。予めご了承ください。

観光庁長官登録旅行業第1665号 国際航空運送協会公認代理店 一般社団法人日本旅行業協会 正会員

旅行企画・実施



たびまちゲート広島

本社/〒730-0021 広島市中区胡町3番19号(中国ビル)

お申し込み・お問い合わせ

☎082-436-3600 FAX082-497-4200

〒739-0146 広島県広島市八本松飯田2-2-1

企画主催



広島アセアン協会
HIROSHIMA ASEAN ASSOCIATION

後援予定 国際機関日本アセアンセンター

公益財団法人 ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター